

町民アンケート調査 結果概要（まとめ）

※項目後ろの【資料 3-P〇】は資料 3 の該当ページ

カテゴリ	アンケート結果概要	方向性（案）
愛着、定住意向	<p>【愛着】 【資料 3-P12】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「愛着を感じている」と「やや愛着を感じている」の合計で 8 割強。 ・H26 と比較すると、10 代の愛着が大きく増加したが、20 代と 40 代～60 代、吉田東部の愛着が減少している。 <p>【定住意向】 【資料 3-P12】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「住み続けたい」と「どちらかと言えば住み続けたい」の合計で 8 割強。 ・H26 と比較すると、特に 20 代と吉田東部の定住意向が低下している。 	<p>①高い愛着と定住意向を今後も維持することが重要。</p> <p>②H26 と比較して特に減少している 20 代や吉田東部では、「日常の買い物の便利さ」の不満が突出しており、この解消が愛着や定住意向、暮らしやすさの向上に寄与すると考えられる。</p>
生活環境	<p>【満足度】 【資料 3-P13】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活環境は概ね満足側の傾向にあるが、「公共交通機関の便利さ」が突出して不満傾向を示す。 ・定住意向が低い回答者の満足度が特に低いのは、「公共交通機関の便利さ」「日常の買い物の便利さ」「保健・医療体制や施設の整備」。 ・H26 と比較すると、全体的に満足度は上昇傾向にある。満足度が低下した項目は少ない中で、「公共交通機関の便利さ」「日常の買い物の便利さ」の低下が目立つ。 <p>【重要度】 【資料 3-P14】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての施策で重要側にあり、中でも「保健・医療体制の充実」「公共交通機関の便利さ」「日常の買い物の便利さ」が高い。 ・重要度が特に高い項目は、満足度が特に低い項目と概ね合致する。 ・H26 と比較すると、重要度は全体的に低下傾向にある。中でも、「公営住宅・宅地の整備」や「定住の促進」の重要度が低下している。 <p>【満足度と重要度の散布図によるカテゴリズ】 【資料 3-P15】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【重点改善項目】としては、「持続可能な基盤づくり」、「わたしとわたりの基盤づくり」、「未来に輝く健康づくり」の項目が分類され、中でも『公共交通機関の利便性』『保健・医療体制や施設整備』『子育て支援』『日常の買い物の便利さ』『雇用対策』『高齢者福祉』のニーズが高い結果となった。 <p>【自由意見】 【資料 3-P23】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院や買い物施設、役場庁舎等へのアクセス性向上のために、町民バスや公共交通機関の利便性向上が強く求められている。次いで多い要望が医療機関の充実、買い物環境の充実、企業誘致。 <p>【暮らしやすさ】 【資料 3-P16】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「暮らしやすい」と「概ね暮らしやすい」の合計で 7 割強。属性別では愛着や定住意向と同様の傾向を示す。 ・H26 と比較すると、30 代、40 代の評価は上昇したが 20 代が大きく低下し、地区別では吉田東部が低下している。 	<p>③H26 に比べ全体的に重要度が低下した要因として、以下が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H26 調査時は震災から 3 年程度しか経っておらず、日常生活の不便さの解消が強く求められていたということ。 ・施策の実施等により生活環境が向上し、「全体的に重要」から「重点項目が絞られてきた」こと。 <p>④満足度と重要度から特にニーズが高いと整理された「公共交通機関の利便性」「保健・医療体制や施設整備」「日常の買い物の便利さ」「雇用対策」「子育て支援」「高齢者福祉」の対策が必要。</p> <p>⑤総合発展計画の後期基本計画において特に注力すべき事項をハード・ソフト事業で分類し、主にソフト事業を総合戦略（まち・ひと・しごと）に組み込むものとして整理することも考えられる。</p> <p>例：「日常の買い物が不便」→「さざんか号やわたりん号の利便性強化と周知により、町内のスーパーや商店へのアクセス性を向上」 →新総合戦略の基本目標 2（地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる）、基本目標 4（人が集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる）に対応</p>
協働のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりへの参加意思は、5 割強が参加意思を示している。H26 と比較すると、10 代と 30 代が微増したが、それ以外の年代含め、性別、居住地区、定住意向の全てで減少している。なお、参加したい活動は「地域活動」と「環境活動」が最多。 【資料 3-P18】 	
将来像 将来人口 公共施設 SDGs 役場周辺の土地利用	<p>【将来像】 【資料 3-P17】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・望ましい町の将来像は「健康福祉のまち」が 1 位、次いで「快適住環境のまち」。この順位は H26 と同じ。ほぼ全ての属性でこの傾向だが、20 代と 30 代は「子育て支援のまち」が 1 位。 <p>【充実してほしい公共施設】 【資料 3-P17】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実してほしい公共施設は、「総合病院」が 1 位、大きく差を開けて「高齢者福祉施設」が 2 位。 ・町の将来像と充実してほしい公共施設については、H26 と比較しても得票順位はほぼ変わらない。 <p>【将来人口】 【資料 3-P19】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「定住人口の増加を図るべき」が 31%で最多、次いで「交流人口の増加を図るべき」が 26%。 <p>【役場庁舎周辺の土地利用】 【資料 3-P22】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活利便施設の立地促進」が最多、次いで「公園や広場などの憩いの場」 <p>【自由意見】 【資料 3-P23～資料 3-P25】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハード整備では道路および付帯施設、公園整備の意見が多く、ソフト施策では子育て・高齢者支援、安全安心、町の PR の強化等。 ・近隣と連携したまちづくりの必要性を求める意見と、合併せずに独自のまちづくりを進めるべきという意見が拮抗。また、町の様々な施設については、必要に応じた統廃合や近隣市町との共有の意見も出されている。 <p>【SDGs】 【資料 3-P22】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に力を入れるべきゴールは、「11：住み続けられるまちづくりを」が最多、次いで「3：すべての人に健康と福祉を」が続き、望ましい町の将来像とほぼ合致する。 	<p>⑥望ましい将来像として票を集めた「健康福祉のまち」「快適住環境のまち」を念頭に置きつつ、20 代と 30 代が強く求める「子育て支援のまち」については、引き続き総合戦略でも柱として対応していく。</p> <p>⑦将来人口については、目標人口である 34,000 人を大きく減少させないことを打ち出すことが必要か。今後人口ビジョンのシミュレーションにより検討していく必要がある。</p>
地方創生事業	<p>【認知度と今後の展開】 【資料 3-P20～P21】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の認知度は全体的に低い。ただし、「イベントブースへの出展」と「はらこめしの PR」「子ども医療費無償化の拡大」は高い。 ・全ての施策で今後の事業継続が望まれている。認知度が高い施策は、事業継続のニーズも高い傾向にある。 	<p>⑧地方創生事業については、住民のニーズを踏まえつつ、KPI の計測結果、国からの補助等を鑑み、⑤⑥の考え方も組み入れながら実効性の高い事業を抽出整理することが必要。</p>